

デジタル変革時代の ICT グローバル戦略懇談会(第4回) コメント

坂村 健

INIAD (東洋大学情報連携学部) 学部長／東京大学名誉教授

●前回に比べ、大幅に良くなったと思う

- 「基本理念」を上げ、その実現のための「6つの戦略」という階層的構成になっている
- 「オープン」が「6つの戦略」の一つとして大きく取り上げられている

●しかし…「戦略」と銘打つなら

- 基本理念が鼎立しており、例えば「持続可能性と多様性が相反するような場合の優先順位」といったものには答えられない——なぜこうなったかを推察するに、日本的に優先順位をつけたくなかったからか?——結果、あたりさわりの無いものになっている
 - ✧ 多様性の実現は一般には非効率であり持続可能性に反することは意識すべきで、その矛盾を解決するために「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」を行うと言ってほしい!
- 大目的は「持続可能でありながら人間中心で多様性を維持した社会を実現を両立する」など、一つにする
- そしてそのための大方針として「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」を行う——こうすると「何のために何を」が明確なストーリーとなり、説得力が増し欧米的にも理解を得やすいだろう

●「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」とは具体的に

- AI+IoT
- API エコノミー、API ガバメント

●そして「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」を実現する戦略として

- データと制御のガバナンスと責任分界の制度化が必要
 - ✧ パーソナルデータ利用についての日本としてのスタンスの明確化
 - ✧ ギランティからベストエフォート、ウォーターフォールからアジャイル、強い標準化から弱い標準化への転換
 - ✧ 官民の役割分担の明確化: 官はインフラ整備し民はその上で競争しよりよい応用で社会に貢献する
- デジタルが使えない人がいると社会全体の DX ができないからこそ、デジタル・デバイド解消が必要
 - ✧ 特に世代間デジタル・デバイドの解消
- 社会全体が DX したときに崩壊しないため最低限のサイバーセキュリティの確保が必要

●そして「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」を日本の稼ぐ力と世界への貢献につなげるためにすべての人の社会進出と海外展開の戦略を立てる必要があり、具体的には例えば…

- 女性や高齢者・障害者などのより一層の社会進出を助ける DX を目指す
- そういう日本型 DX をアジアはじめとする世界に広めることで、SDGs に貢献する